

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校 学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気遣い、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇教務・図書部
4 現状の分析	○「学校は、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようと努力している。」と答えた保護者が72%から81%に上がった。また、生徒への「本校では、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会やオンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。」という項目に対しても、79%から86%に上がった。この結果からも、本校でのICTを活用した授業への取組の成果であると考えられる。 ○「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。」という項目に対し、80%から88%に上がった。今後も、授業を通して、教員と生徒に良好な信頼関係が構築されていくよう、全職員で工夫ある教材研究などに励んでいけるとよい。
5 学校の抱える課題	◇生徒の心に寄り添った学習支援及び生徒支援の在り方について ・生徒が学校生活において、自己肯定感を高め、自己の存在価値を高められるような指導や支援の在り方を教員間で学び合い深め合う。互いに情報交換する機会を増やし、指導力の向上とともに生徒の学習意欲・理解の向上を目指していく。
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 学習指導 (1) 生徒の実態に応じた指導計画の作成 (2) 学習内容の習得と主体的な学習態度の育成 (3) 創意工夫のある授業の実践 2 コンピュータを活用した校務処理の体系化 (1) 校内ネットワークに関するセキュリティの向上

	<p>3 情報発信 (1) 電子メディアによる情報発信(HP、メール配信システム) (2) 活字メディアによる情報発信(学校案内等の編集) (3) 本校に関する報道記事の収集と保存 (4) 読書感想文集「飛天」と校誌「あかつき」の編集</p> <p>4 西濃地区連携型中高一貫教育の充実 (1) 学習面談指導、サマースクール、中2体験授業等を全職員で取り組む。 (2) 地域での連携活動を充実し、生徒の学びを深める。</p>	
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 評価と指導の年間計画・シラバスの配付の作成依頼、集約 (2) 授業アンケートの実施と集約 (3) 課題や読書感想文など幅広い学習機会の提供及び支援。 (4) 「授業改善研修会」の実施授業改善への取組とその検証及び反省記録の依頼集約 (5) メール配信システムへの登録状況向上 (6) HP更新(揖斐高Topics、各種通信など)新聞記事の許諾申請・掲示 (7) 町教委、連携中学校、本校と連携行事(中高一貫教育事業)の調整 (8) ICTを活用した工夫ある授業への取組 (9) オンライン授業の実施</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 評価と指導の年間指導計画・シラバスの作成に関して各教科へ的確に依頼できたか。 (2) 年2回実施し、授業改善に役立てたか。 (3) 適切な課題や適切な支援を実施することができたか。 (4) 授業改善にむけて、テーマに合わせた研修が実施できたか。 (5) 登録が適切に行われ、登録者の増加に繋がったか (6) 情報発信が滞りなくできているか。 (7) 連携についての課題を解決しながら、行事を進めることができたか。 (8) ICTを活用し授業改善ができたか。 (9) 必要時にオンライン授業が実施できたか。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>①評価と指導の年間指導計画・シラバスの作成依頼・集約と年度末授業改善のための反省記録の依頼集約が計画的に実施できた。 ②全職員が「授業アンケート」の実施による生徒の状況把握、改善実践状況の交流ができた。 ③適切な課題を適切な時期に実施し、学習支援を図ることができた。 ④配信メールの登録及び帰宅確認訓練の実施ができた。 ⑤HPの更新、記事の掲載及び許諾申請の提出がこまめに実施できた。 ⑥全職員の協力のもと、連携行事のスムーズな運営ができた。 ⑦他分掌との連携と学校行事の円滑な遂行ができた。 ⑧ICTを活用した授業の改善ができた。</p>	<p>10 評価視点</p> <p>①学習指導の充実及び各教科の連携を図ることができたか。 ②授業改善に活かせることができたか。 ③適切な課題を提供し、丁寧に学習支援を実施した。 ④登録及び回答率の上昇。生徒の安否確認を円滑に行うことができたか。 ⑤生徒の活躍の情報発信を円滑に行うことができたか。 ⑥課題を解決しながら運営できたか。 ⑦学習支援、教科・分掌との連携ができたか。 ⑧ICTを効果的に取り入れると共に授業改善ができたか。</p>	<p>11 評価</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D</p>
<p>12 成果・課題</p>	<p>①○評価と指導の年間指導計画・シラバスの作成依頼・集約と年度末授業改善のための反省記録の依頼集約が計画的に実施できた。来年度は全学年が新教育課程となる。今後も全教科で連携をし、学習指導に努めたい。 ②○生徒が普段思っていることを聞く良い機会であり、授業改善の足がかりになった。MicrosoftFormsを利用することで、効率よく集計することができた。教科主任が取りまとめ、職員会議で周知させることができた。 ③○保護者懇談時に課題等を提示したり、MicrosoftTeamsを活用し依頼・集約をしたりして、家庭学習の充実を図った。各教科担任からの事後指導も丁寧に行った。 ④○今年度も帰宅確認等すぐメールを多く活用した。全校生徒の登録確認ができている。(メール配信が有効に活用されているという保護者の解答92%) ⑤○HPや新聞記事を更新し、取材依頼及び許諾もスムーズに実施できた。生徒の活躍する姿を掲載することができ、本校のよいアピールとなった。</p>	<p>総合評価</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p>

<p>▲情報提供について、各担当で更新しやすくするために、現在、Wordpressにてホームページを準備・作成している。</p> <p>⑥○3校との中高連携校と各行事を実施した。連携中学生のキャリア教育の一端となったと思う。学習面談等も円滑に行うことができた。</p> <p>▲中高連携に関する行事の精選と日程や内容を検討していく必要がある。</p> <p>⑦○高校1日入学など、学校行事において、各分掌からの協力を得て、円滑に実施することができた。今後も助け合いや支え合い、互いに声を掛け合う姿勢を継続していきたい。</p> <p>⑧○日頃の授業ではICT機器の工夫ある活用を通して、生徒の学習理解を高めることに役立っている。天候による休校時等においても、オンライン授業を実施した。また、オンラインでの全校集会を積極的に行い、全職員でICT活用を積極的に行った。</p> <p>▲ICTの活用が一部の先生にやや偏っている傾向にある。</p> <p>▲タブレット導入してから年数も経ってきているため、老朽化や破損などのトラブルも生じている。</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善など、校内研修を活用して、全職員で研究を進め、指導力の向上に努めていきたい。 ・評価と指導の年間指導計画、シラバス作成について、記入の方法等など徹底する。 ・生徒の各課題については、内容・量・実施時期など各教科と連携し、生徒が意欲的に取り組めるよう検討する。 ・授業アンケートの実施については定着してきたので、効果的な活用方法について検討する。 ・メールの登録をPTA総会や保護者懇談会など定期的に活用する。 ・HPについては、実施方法について各分掌に提示し、各担当で更新できるようにする。 ・中高一貫教育について、年度初めに共通理解を図り、連携行事等の内容や日程等について関係職員で検討しながら企画・運営をする。 ・引き続き、各行事の運営についてはバランスよく役割分担などを行い、他の分掌や学年と連携する。 ・ICTを活用した工夫ある授業を全職員で目指し、校内研修を通して、取組事例や最新の情報の共有を図る。これらの実践を通して、生徒にとって分かりやすく楽しい授業を展開していく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用は、生徒の個別最適な学びに有効である。その学びを実現するためタブレットの活用場面を工夫するとともに、研修等を実施して教員のICT活用指導力を向上させてほしい。 ・選択授業やコース別授業では、少人数のため生徒に手厚い指導ができています。また特別非常勤講師による授業では、実務の面から専門的知識を学べるので、生徒も充実感が得られているのではないかと。 ・連携型中高一貫教育校として、地元の中学校と連携してきめの細かい指導や、様々な体験の機会があるなどすばらしい教育活動を行っている。他地域の中学校からも本校を志望してもらえるよう情報発信してほしい。 ・揖斐Basicに関して生徒の満足度が低い。学び直しをしている本校の特徴的なものなので、生徒に聴き取りして、よりよいものとなるようにしてほしい。
--

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校 学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習 ・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導部（教育相談）
4 現状の分析	○高校生としてのマナーや社会規範を身に付ける指導に関して、生徒・保護者とも理解を得ている。これは入学から卒業までどの学年でも統一した指導を継続していくことで、生徒自らルールやモラルを守ろうと意識した結果である。 ○いじめや差別では生徒同士のコミュニケーション不足で誤解が生じている事案もあり、教員がサポートすることで個々の相談に対応している。 ▲社会の変化にともなって生徒を取り巻く環境も大きく変化しており学校も保護者も把握しきれないことが多くなってきた。
5 学校の抱える課題	◇家庭環境の複雑化などから、保護者が生徒の行動を把握していない ◇スマホの普及による人間関係の複雑化、SNSによるトラブル。
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 基本的な生活習慣確立の徹底 ・欠席・遅刻の防止対策 2 生命尊重の態度と人権意識の伸長の徹底 ・交通安全指導 ・生命や自他の生活を大切にできる生徒の育成 3 規範意識の醸成 ・ルールの遵守とマナーの向上にむけた指導 ・問題行動の未然防止に努める ・SNSの活用改善に向けての指導

<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 生徒指導部、学年団による遅刻指導 (2) 地域巡回指導、交通安全教室 (3) 情報モラル教室、学年・全校集会での啓発</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 遅刻者数の前年度比 (2) 交通事故発生件数の前年度比 (3) 問題行動発生数の前年度比</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>・遅刻が常習化している生徒へは、遅刻時以外の場面でも声掛け等をして日常的に指導している。 ・保護者からの欠席・遅刻入力だけでなく、心配な生徒にはHR担任が保護者へ確認をしている。 ・MSリーダーズによる交通啓発活動は、地域と協力して実施した。 ・交通講話、情報モラル講話、人権講話などの啓発活動も対面やオンラインなど状況に応じて実施した。</p>	<p>10 評価視点</p> <p>①遅刻者減少 (1078→611) 1年128 2年204 3年279 欠席者減少 (2279→1660) 1年648 2年648 3年364 早退者減少 (423→272) 1年128 2年53 3年91</p> <p>②交通事故減少 (11件→2件) ③問題行動減少 (12件→7件) 1月9日現在</p>	<p>11 評価</p> <p>A (B) C D A (B) C D A (B) C D</p>
<p>12 成果</p> <p>○遅刻・欠席・早退とも前年度に比べて大幅に減少した。これはコロナ禍でなくなり従来通りの欠席等の扱いになることから『できるだけ欠席をしない』という生徒の意識の変化がみられたこと、また常習化しそうな生徒保護者に対し、事前に支援をした結果である。</p> <p>課題</p> <p>○交通事故は昨年度に比べて減少した。交通ルールを守ること、事故発生時にすばやく通報するなど規範意識が高くなった。 ▲人間関係に不安を抱えている生徒が多く、些細な行き違いからトラブルになる事案が多い。また、中学校から不登校傾向の生徒が長期欠席のまま進路変更することがあり、問題行動以外にも様々な支援が必要となっている。</p>		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・生徒の自己解決能力や自己効力感、コミュニケーション力などの育成を目指し、学校・家庭・地域の関係等の強化を図り、生徒を指導・支援していく。 ・発達障害やLGBTQなど多様な背景を持つ生徒が増加しており、学校が誰にとっても「生きやすい場」となるために課題解決に向けた指導や援助をしていく。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>・SNSのトラブルはどのようなものがあり、どのように指導しているか。 ⇒SNS上に個人が特定できる情報など不適切な書き込みがあり、内容によっては生徒間トラブルにつながるものもある。生徒に対しては、情報モラル講話や全校集会等の機会でのSNSの適切な利用について指導している。保護者に対しては、入学式等の機会での説明を行い、家庭でも協力を得られるよう努めている。</p> <p>・自転車のヘルメット着用が努力義務化されたが、本校はどのような状況か。 ⇒ヘルメットを着用している生徒数は少しずつ増加している。ヘルメットを着用することで救われる命があることを、あらゆる機会に生徒や保護者に説明している。</p> <p>・生徒の心の問題に対する早期発見や心のケアについて、本校はどのような体制か。 ⇒心のアンケートやいじめアンケートを定期的実施したり、長期休業明けなどに生徒が担任と面談する機会を設けて早期発見に努めている。また、スクール相談員や特別支援教育支援員にも生徒の見守り・支援をしてもらっており、迅速に情報共有や生徒対応をするようにしている。必要に応じてスクールカウンセラーにつないでいる。</p>
--

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校 学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」とICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習 ・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇進路渉外部		
4 現状の分析	・生徒、保護者から8割以上の「肯定的」な評価を得ている。理由として、対面で学年別進路説明会を実施し予想以上に多くの保護者が出席されたからだと思われる。(出席率37%) ・売り手市場、18歳人口減であり多くの生徒が第一志望の進路選択を達成できたことも満足度の高さに繋がったと思われる。 (以下、生徒及び保護者等を対象とするアンケートより) ・学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。83% ・学校は生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。70.7% ・本校では生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。85.1% ・本校では生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。84.3%		
5 学校の抱える課題	◇人間関係を築くことが苦手、不登校傾向の生徒に対する進路支援 ◇高校卒業後にかかる学費等の認識不足(生徒、保護者)		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基礎学力の定着 (2) 生徒の進路希望・適性を踏まえた進路実現 (3) コミュニケーション能力の育成 (4) PTA活動を的確に伝えるための『あかつき』の改善 (5) 保護者への情報提供としてホームページやメール配信の活用		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 「揖斐Basic」(1年) (2) 「デュアル実習」(3生)	(1) 基礎学力診断、認定テストによる評価 (2) 取組状況、参加者の意識変化や感想		

<p>(3) 「進路適性検査」 (2・3年生) (4) 「企業&進学ガイダンス」 (全学年) (5) 「先輩と語る会」 (3年生) (6) 「進路希望調査」 (全学年) (7) 「1分間スピーチ」 (2年生) (8) 「キャリアプランナー」との面談 (9) 「企業訪問」実施</p>	<p>(3) 保護者懇談等で活用できたか (4) 視野を拡げ進路決定につながられたか (5) 一年後、二年後の自分を想像できたか (6) 生徒の実態調査、悩みの把握 (7) 原稿作成時の取組状況、発表会における評価 (8) 保護者懇談会等で役立てることができたか (9) 有益な情報を生徒に還元できたか</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>(1) 基礎学力診断、認定テストによる把握。 (2) 年間20回の成果を学習成果発表会で披露 (3) 懇談時に進路について目標を明確にした (4) 企業&進学ガイダンスで視野拡大 (5) 先輩と語る会を実施 (6) 進路希望調査 (7) 「1分間スピーチ」原稿作成及び発表会 (8) 5月に3年生、10月に2年生全員と面談 (9) 企業とのつながり (10) P T A活動の情報を分かりやすく伝えるために『あかつき』の内容を検討</p>	<p>10 評価視点</p> <p>(1) 取組状況及び確認テスト (2) 本校職員及び受入企業、参加生徒による評価 (3) 保護者懇談会で進路について相談できたか (4) アンケートの感想分析 (5) 聞き手だけでなく発表者の成長が見られ今後につながる活動となったか (6) 悩みを把握できたか (7) 原稿、発表会評価 (8) 自分を語れる場を提供 (9) 進路決定に役立ったか (10) PTフォーラム、全国大会や文化祭などの活動状況を『あかつき』で報告</p>	<p>11 評価</p> <p><input type="checkbox"/> A B C D <input type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>12 成果 ・課題</p> <p>○「デュアル実習」8名が履修を終え、学習成果発表会では企業の方々を招き、見事な発表を披露できた。内定につながった生徒が3名いた。 ○「進路希望調査」4月～7月にFormsを活用して実施。揺れ動く進路希望先や悩みを適宜把握し担任に還元することができた。生徒の状況把握度が格段に増し進路への不安解消に結びついた。 ○「企業訪問」生徒の第一希望を尊重し、企業側と交渉することで採用枠増につなげ内定に結び付いた。 ○「企業&進学ガイダンス」2年生で2回、3年生で2回実施した。各生徒は8ブース×20分、担当者から話を聞き視野を拓げた。進路選択に大きな影響力があった。 ○「先輩と語る会」3年生は自分の進路実現に対する成功体験を堂々と発表できたと同時に自己肯定感も高まったように見られた。聞き手側の後輩も1年後、2年後の自分の姿と重ね、真剣に耳を傾ける姿が印象的だった。 ▲応募前見学を2か所は回り、比較した上で企業選択ができるように方針を転換した。中には2か所では決まらず5か所回った生徒もいた。十分比較し納得した上で応募できた点は生徒にとってメリットとなった。逆に、進路担当者の書類準備が煩雑になったり、応募時期がずれ個別対応となったりした案件が増えた。しかし、今後、生徒数が減少することを考えると、今年度以上に手厚い指導が可能である。継続したい。</p>	<p>総合評価</p> <p><input type="checkbox"/> A B C D</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果を今後につながるようにマニュアル化したい。 ・他校の先進的な取組があれば積極的に取り入れ、生徒に還元できるように努めたい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスでは、多くの企業、大学、専門学校が集まり対面で実施していたが、生徒のガイダンスに臨む姿勢がよかった。 ・進路指導では、求人票をインターネットで閲覧できるなどICTの活用を進めており評価したい。それに加えて、人と人との関係で伝えることも大切にし、生徒が様々な方向から情報を得られるよう配慮してほしい。

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校 学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習 ・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇特別活動部		
4 現状の分析	○ホームルーム活動、部活動、生徒会活動に関する生徒の回答の高評価の割合が小幅ながら上昇している。コロナによる活動制限が緩和され、学校行事や部活動の大会等がコロナ以前に近いかたちで実施され、活動に対する生徒の充実感も増しているからであろう。 ▲部活動に関する保護者の回答の4割近く(37.2%)が「わからない」と回答していることは、部活動加入率が約50%であることが要因であると考えられる。		
5 学校の抱える課題	◇学校行事やその他の生徒会活動において、生徒がより自発的に取り組み、個々の能力を発揮する機会を設けること。 ◇部活動に参加し、その活動を継続する生徒を一人でも多くできるような働きかけをすること。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒が自ら考え行動する力を育てる。 ・委員会活動の充実をはかる。 ・部活動への積極的な参加を促す。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 定例の執行部会の開催・リーダー研修会の実施 (2) 委員会活動の活性化と新しい企画・取り組みの検討 (3) 部活動参加の働きかけ。部の活動状況の広報	(1) 生徒の自主的な話し合い・活動がなされたか。 (2) 各委員が活動に積極的に参加するようになったか。 (3) 入部者が部活動を継続できているか。		

<p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回の生徒会執行部会、長期休業中のリーダー研修会の実施 ・委員会活動への参加を促し、新しい取組の検討 ・キャリアパスポートを活用し、HRTが活動状況を把握しやすくする。 	<p>10 評価視点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 活発な意見交換、意欲的な活動状況がみられたか。 ② 生徒の委員会活動への参加状況。 ③ HRTと部顧問との連携がなされたか。 	<p>II 評価</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○文化祭は4年ぶりにコロナ以前と同じようなかたちで実施することができた。クラスや部活動の発表に加え有志団体の発表も複数あり、生徒の満足度も高かった。</p> <p>○学年対抗という新形式での2回目に開催であった。新種目も加え生徒には概ね好評あった。次年度以降も改善を加えながらこの形式を継続していきたい。</p> <p>○いびがわマラソン、青少年育成町民大会が開催され、生徒会執行部員が大会運営にかかわるボランティアに参加できた。この経験を校内での活動につなげたい。</p> <p>▲新入生の部活動加入率が50%弱であった。男子の加入率約60%に対し、女子の加入率はその半数であった。(ただし継続率は目標の70%以上を上回った。)</p> <p>▲委員会活動への生徒の参加状況は概ね良好であるが、新しい取り組みは不十分であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生の体験入部をさらに推奨して部活動加入者を増やし、キャリアパスポートを活用して活動を継続していくことを働きかけていく。 ・文化祭・体育祭などの学校行事の運営に当たっては、生徒会執行部が情報発信を活発に行い、生徒の積極的参加を促し、自主的な活動を充実させる。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校における部活動の地域移行はどのような状況か。 ⇒高校では地域移行の具体的な話はない。県教委より学校規模に応じて部活動の数が定められており、部活動の統廃合など見直しを随時行っている。 ・今年度の体育祭などの行事の実施状況はどうか。 ⇒体育祭は、昨年度の半日開催から、今年度は1日開催とした。文化祭では、新たにPTAによるバザーを開催し、多くの保護者に協力をいただいた。いずれも生徒会役員が中心となって企画・運営しており、生徒は生き生きと取り組んでいた。
--

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校 学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習 ・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇保健安全部		
4 現状の分析	○命を守る訓練ではコロナで実施できなかった屋外避難などが実施できた。実際に生徒自身が動いて確認できたことでより防災を学ぶことができた。 ○感染症について知識と理解が身に付き、自分自身で考えて行動できる生徒が増えた。 ▲睡眠時間や食事などの基本的な生活習慣が確立されておらず、遅刻早退や欠席等、学校生活に影響している生徒が多くいると推測される。		
5 学校の抱える課題	◇睡眠時間や食事などの基本的な生活習慣が確立されていない ◇健康診断後の治療受診率の低さ		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・保健指導：心身の健康状態を知り、健康増進や体力向上を実践する能力を育てる。 ・学校安全：安全に対する意識を高揚させ、留意する態度を育て自らの判断で避難する能力を身に付ける。 ・環境整備：環境美化に自主的に協力し、将来的に地球規模での環境保全活動に取り組む意識と態度を育てる。 ・危機管理：災害や非常事態に備え、行動マニュアルや用品備蓄の対応を行う。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 各種健康診断及び事後指導・保健指導 (2) 安全点検・命を守る訓練 (3) 美化委員会清掃活動 (4) 備蓄品の確認	(1) 医療機関受診率の向上、保健室来室者の変化 (2) 不具合の対応、訓練状況の向上 (3) 清掃取り組み状況の向上 (4) 備蓄内容の選定		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 各種健康診断の実施及び事後指導、保健指導 命を守る訓練等による、非常変災時に備えた行動体験、実際の緊急地震速報音声を利用した避難を実施 美化委員が中心となり、各種作業を実施 備蓄品の確認、変更 	<p>①健康診断後の事後指導を積極的に行ったが、医療機関受診率結果が低い。</p> <p>②訓練や講習会に取り組み再確認することで、意識や行動が向上したと考える。</p> <p>③各クラス美化委員を中心に意識をもって美化活動が行われたと考える。</p> <p>④災害時を想定し、選定を行った為と考える。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>12 成果</p> <p>課題</p>	<p>○様々な場面を想定（授業中・緊急地震速報）した訓練を実施し、非常変災時の啓発を行った。（命を守る訓練 4月8月11月 計3回実施）</p> <p>○一人一人が日々の清掃活動を行い、学校環境の保全に努めた。</p> <p>▲治療受診率</p> <p>視力： R3 50%→R4 37.7%→R5 37.7%</p> <p>歯科： R3 5.1%→R4 25.6%→R5 11.1%（1年0% 2年20% 3年8.7%）</p> <p>昨年と比べ、治療受診率は、視力は同率、歯科は減少した。確実に受診してもらうため、今年度は受診書が直接保護者に渡るよう、保護者懇談での対面指導を実施したが、状況は改善されず受診率は低いままである。歯・口の状態は生活習慣の状況を反映し、むし歯を治療せずに放置すると口腔清掃が不十分になり、プラーク量が増え、誤嚥性肺炎、糖尿病、動脈硬化、心筋梗塞、早産、低体重児出産のような病気を引き起こす可能性が高くなる。将来的に考えて必ず治療してもらいたいと考えるが、なかなか受診率が向上しないのが現状である。個々への積極的な呼びかけ、保護者への再度連絡も必要かと考える。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>13</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 視力検査及び歯科検診実施、診断後の治療受診率50%以上を目標とする。対象生徒、保護者への通知を行い、三者懇談で直接受診のお願いをしたにもかかわらず、未受診の生徒がいまだに多いため、担任と連携し、未受診者に対して再度通知を出すなど受診率を向上させたい。 本校はBMIによる、やや肥満・肥満と判定された生徒が多く、体力の低さも気になる点である。部活動や体育などと連携し、体力向上を目指したい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒は睡眠時間が少ないなど健康面での課題があるが、正しい食生活や適度な運動など基本的な生活習慣を確立できるよう根気よく指導してほしい。

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校 学校番号 19

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習 ・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇専門部（生活デザイン科）		
4 現状の分析	○4コース（福祉、保育、被服、食物）の専門性を生かした地域連携学習を積極的に推進している。 ○授業アンケート（年2回）の結果 ・授業内容がよく理解できた割合 97.7% (R4) →98.2% (R5) ・授業後さらに学びたい生徒の割合 91.6% (R4) →87.5% (R5) ・自主的に家庭学習をしている生徒 86.3% (R4) →90.8% (R5) ▲人間関係のトラブルが多く、自己肯定感が低い生徒が多い。		
5 学校の抱える課題	◇外国籍の生徒やコミュニケーションに困難を抱えた生徒など、多様な生徒に寄り添った学習環境を整備し、深い学びを実現すること。 ◇生活デザイン科においては、経験年数の浅い3年目までの教員が約半数であるため、指導方法や困りごとなど情報を密に共有していくこと。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・授業改善に努め、主体的に学ぶ習慣を身に付けさせる。 ・地域連携学習を推進し、生徒の自己肯定感と専門性を高め、コミュニケーション能力や思考力・判断力を育成する。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 指導と評価の一体化を通じた「わかる」、「できるようになる」授業改善 (2) 各種検定・コンクールへの挑戦 (3) 学習成果発表会に向けて継続的な取組 (4) 地域連携や外部講師による講習会を積極的に実施 (5) 学校家庭クラブ活動の推進	(1) 目標達成についての生徒による自己評価、実習及び授業の様子、実技テスト等 (2) 家庭科技術検定1級、介護職員初任者研修修了、コンクールの入賞 (3) 学習成果発表会の振り返り (4) 授業アンケート、地域からの意見により判断 (5) 学校家庭クラブ活動の振り返り		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる」「できるようになる」よう、授業改善に努めた。 ・各コースの専門性を生かした実習や外部講師による講習会に取り組んだ。保育コースの木育や福祉コースのサロン交流、被服コースの草木染、食物コースの地域食材を活用した商品開発等、多岐にわたる地域連携学習ができた。 ・学校家庭クラブが地域のNPO法人「いびわんすと」と連携し、地域活性化に向けて取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の自己評価、感想、実技テストの結果、授業アンケートの結果 ② 実習後の感想、反省の内容、外部講師の意見、施設からの聞き取り結果 ③ 検定の合格率、コンクールの入賞者 	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○実践的な知識や技術を身に付けるために、授業以外にも外部講師による様々な講習会を実施し、専門的な学びを深めることができた。 ○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、地域連携学習やボランティア活動を活発に行うことができた。様々な世代との交流や地域資源から学ぶ実践的な学習を通して、コミュニケーション能力や感性を磨き、自己肯定感を高める指導の工夫ができた。 ○揖斐農林事務所や地元企業（JAいび川、西濃建設株式会社、株式会社久保田工務店、株式会社揖斐菓匠庵みわ屋）、NPO法人「山菜の里いび」と連携した商品開発を通して、地域資源の魅力を発見するとともに、地域に貢献する心を育むことができた。 ○学習成果発表会では培った力を発揮することができ、来賓、保護者、在校生、中学生など多くの方に見ていただくことができた。 ○学校家庭クラブ活動に対して、公益財団法人「小さな親切」運動本部より、「小さな親切実行章」が送られた。長年にわたる継続的な活動が評価された。 ○初任者や経験が浅い教員が約半数を占める中、教員間のコミュニケーションと協働を大切に、チームワークよく進めることができた。 ○3年生の進路において、就職希望者の41.1%、進学希望者の81.8%が福祉、保育、食物、ファッション等、生活産業に関わる進路に進む予定である。 ▲コンクール入賞者が4人であった。家庭科技術検定の合格率については、基礎技術である3, 4級100%を目指したい。 <p>被服製作…洋服1級100% (75%) 洋服2級85% (86%) 3級60% (43%) 4級86% (95%)</p> <p>食物調理…1級93% (84%) 2級91% (93%) 3級63% (74%) 4級93% (95%)</p> <p>保 育…1級希望者100% (100%) 2級60% (61%) 3級87% (84%) 4級100% (100%)</p> <p>() 内はR4年度</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業改善に努め、基礎学力の定着を図りたい。また、身に付けた知識・技術を活用する場を多く設定し、主体的に学び考える姿勢を育て、深い学びにつながる工夫をしていきたい。 ・専門学科として、専門性を生かして地域に貢献できる生徒を育てていきたい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果発表会は、生徒一人一人が主役となっており大変感動した。発表内容も年々レベルアップしている。発表会に向けて、生徒の自己肯定感を高めるためどのような指導を行っているか。 ⇒発表に自信がもてない生徒もいるが、教員が生徒の性格や特性を把握しつつ、仲間 の協力も得ながら個々の生徒に応じた指導を行っている。 ・被服コースの生徒が受験する着付けの検定は、国家試験など様々なものがあるので現在受験している検定に限定せず他の検定も含めて検討してはどうか。
--